ベネズエラ情勢（内政・外交：令和５年７月）

１　内政

（１） 野党側予備選挙委員会の動き

（ア） ３日、野党側予備選挙委員会は、在外投票にかかる有権者登録を９日まで延長する旨発表した。更に、９日、同予備選挙委員会は、改めて有権者登録を１０日１２時まで延長する旨発表した。

（イ） １０日、野党側予備選挙委員会は、在外投票にかかる有権者登録が終了した旨、コミュニケを通じて報告した。

（ウ） １７日、野党側予備選挙委員会は、候補者全１４名が、予備選挙に対する脅威に対する共同戦略を評価するための会合に参加し、予備選挙にかかる展望及び行動を共有した旨発表した。

（エ） ２４日、野党側予備選挙委員会は、予備選挙の技術及び運営上の諸事項に関し協議するための会合を開催し、候補者及びその代理人が出席した。

（オ） ２６日、ウスカテギ予備選挙委員会副委員長は、社会的階層にかかわらず大半のベネズエラ国民が参加することのできる広範囲に亘る選挙となるためには、技術面並びにロジスティック面での条件が整っておらず、国外に居住する有権者への対応にも誠実さが見られず、且つ手動での投票プロセスに関しても国民の意志を忠実に反映する結果を引き出すために必要な保証が確立されていないこと等を理由に、カサル予備選挙委員会委員長並びにその他委員に宛てた書簡を通じて辞意を表明した。

（カ） ２７日、カサル委員長は記者会見を開催し、ウスカテギ副委員長の辞任を承認するとともに、同副委員長の代理であったミルドレッド・カメロ代理委員が新たに副委員長に就任する旨発表した。

（キ） ２８日、ウスカテギ前副委員長は、ラジオ番組に出演し、予備選挙委員会単独での予備選挙実施には時間が必要であり、選挙日程の見直しが必要である旨発言した。同日、バルボサ統一プラットフォーム事務局長は記者会見を行い、予備選挙に向けた困難の中、予備選挙委員会が行っている尽力を評価するとともに、２０２４年大統領選挙に向け野党側統一候補を擁立する必要性を述べた。

（ク） ３０日、カサル委員長は、テレビ番組に出演し、自身が予備選挙委員会を辞任するとの噂を否定した。

（ケ） ３１日、ヘスス・マリア・カサル野党側予備選挙委員会委員長及びフランシスコ・カストロ技術委員会委員は、記者会見を開催し、予定通り１０月２２日に予備選挙を実施することが可能な状態にある旨説明した。各州、各市町村の人口に比例する形で３１０６ヵ所の投票所に少なくとも合計５０００台の投票テーブルを設置するとともに、近日中には、国内外の有権者が自身に割り当てられた投票所を検索することが可能な検索システムが開始される旨発表した。

（２） 野党側予備選挙への動き

（ア） ３日、ベネズエラ政府は、ボレル EU 外務・安全保障政策上級代表が、マチャド・ベンテ・ベネズエラ党首の公職就任資格停止をはじめとする野党側議員に対する政治的権利剥奪の動きに関し、懸念を表明するステートメントを発出したことを受け、右を内政干渉として拒絶する旨、外務省コミュニケを通じて表明した。

（イ） １２日、アンドレス・ベジョ・カトリック大学にて野党側予備選挙に向けた討論会が開催され、同選挙に立候補している候補者１４名の内、カルロス・プロスペリ氏（民主行動党（AD））、フレディ・スペルラノ氏（大

衆意志党（VP)）、マリア・コリナ・マチャド氏（ベンテ・ベネズエラ党）ら８名が参加した。

（ウ） １２日、欧州議会が、マチャド・ベンテ・ベネズエラ党首等への公職就任資格停止を非難する決議を可決したことを受け、翌１３日、体制側国会は右決議への拒絶を議決した。

（エ） １４日及び１５日、ラ・グアイラ州及びミランダ州で選挙活動を行っていたマチャド・ベンテ・ベネズエラ党首は、政権支持者の集団による妨害を受けた。

（オ） ２０日、野党側予備選挙に候補者枠を確保する目的で仮の候補者を登録していた新時代党（UNT）は、右候補の立候補を取下げ、同党からは候補者を出さない旨発表した。

（カ） ２６日、野党側予備選挙候補者の１人であるフレディ・スペルラノ氏（VP）が、選挙キャンペーンのため陸路でコロンビアに向かっていたところ、ベネズエラ・コロンビア間のアンタナシオ・ヒラルド国境橋で旅券を取り上げられる事件が発生した。VP はツイッター上でスペルラノ氏の旅券に不備はなかったと説明し、本事件に関する非難を発信した。

（３） その他

（ア） ２日、独立記念日式典の予行練習のため飛行していた戦闘機がカラカス付近で墜落する事故が発生した。

（イ） ５日、マドゥーロ大統領は、ベネズエラ独立２１２周年記念式典で演説を行い、ベネズエラは帝国主義に屈することはなく、今もこれからも自由、主権的、独立した国家であり続ける旨宣言した。

（ウ） ７日、マドゥーロ大統領は、国軍士官学校卒業式及び入隊年（士官学校卒業年）１９９０年の退役式典において、パドリーノ国防大臣及びエルナンデス・ラレス国軍作戦戦略司令部（CEOFANB）司令官等の留任、並びに陸軍司令官及び海軍司令官等の交代等について発表した。

（エ） ２４日、シモン・ボリバル生誕２４０周年及びマラカイボ湖の海戦２００周年に際し、マラカイボを訪問したマドゥーロ大統領は海軍の日を記念する式典で演説を行った。同式典にて、マドゥーロ大統領はマラカイボ湖の汚染からの浄化・回復特別計画の始動を発表し、ロサレス・スリア州知事及びラミレス・マラカイボ市長に対し協力を求めた。また、マラカイボ港に寄港中のロシア海軍の練習艦「ペレコップ」の船内を見学した。

（オ） ２８日、全国選挙評議会（CNE）新委員選出委員会は、CNE 新委員候補として１５３名が立候補した旨発表した。

２ 外交

（１） 非同盟運動（NAM）調整ビューロー閣僚会議

（ア） ４日、ヒル外相は、アゼルバイジャンのバクーに到着した。

（イ） ５日、ヒル外相は、非同盟運動（NAM）調整ビューロー閣僚会議、及びパレスチナ委員会で演説を行った。

（ウ） ５日、ヒル外相は、アル・サバーハ・クウェート外務大臣と会談を行い、二国間協力に関し協議するとともに、エネルギー及び食料安全保障分野における課題を評価した。

（エ） ５日、ヒル外相は、ヴェルシーニン露外務次官と会談を行い、国連憲章を擁護するフレンズグループを引き続き強化してゆくための戦略及び行動を促進する旨繰り返し約束した。

（オ） ５日、ヒル外相は、ファード・フセイン・イラク第一副首相兼外務大臣と会談を行い、経済、エネルギー、文化、友好分野における両国の結束に関し協議した。

（カ）　５日、ヒル外相は、サウド・ネパール外相と会談を行い、国際社会から干渉なく国民の自由な発展を保証する新しい世界的地政学の強化に用意がある旨、繰り返し表明した。

（キ）　５日、ヒル外相は、アレイニク・ベラルーシ外相と会談を行い、二国間協力・相互支援関係を確認した。

（ク）　５日、ヒル外相は、ザンブリー・マレーシア外相と会談を行い、両国の総合的発展に向けた協力友好関係の強化に向けた用意を確認した。

（ケ）　５日、ヒル外相は、マーリキー・パレスチナ外相と、二国間アジェンダに関し会談を行い、故国からの追放を企てる残忍な攻撃に抵抗するパレスチナ人民への支援を表明した。

（コ）　５日、ヒル外相は、アル・ミクダード・シリア外相と、二国間関係の強化に関し、会談を実施した。

（サ）　５日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、ムサバヤナ・ジンバブエ外務・国際貿易副大臣と、二国間関係の強化に関し会談を行い、国連憲章の尊重を基礎とした多極的世界の構築への前進の用意を繰り返し表明した。

（シ）　５日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、ボテス南アフリカ国際関係・協力副大臣と会談を行い、二国間アジェンダを確認した。

（ス）　５日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、ダ・シルヴァ・アンゴラ外務次官と会談を行い、多国間主義を擁護するための協力の重要性、及び新しい世界秩序の強化を繰り返し表明した。

（セ）　５日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、ベン・レジバ・チュニジア外務・移民・在外チュニジア人大臣付国務長官と、二国間関係の強化に関し、会談を実施した。

（ソ）　５日、プフ・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、ヴァルマ・インド西方担当外務次官と会談を行い、二国間協力アジェンダの進捗を確認した。

（タ）　６日、ヒル外相は、国連憲章を擁護するフレンズグループの創設２周年記念会合で演説を行った。

（チ）　６日、ヒル外相は、NAM 青年組織バクー支部の創設式典に参加した。

（ツ）　６日、ヒル外相は、バイラモフ・アゼルバイジャン外相と会談を行い、両国の福利のための二国間関係及び多国間アジェンダを引き続き強化していく重要性に関し協議した。同会談の後、両国の外交機関及び大学間での協力に向けた覚書に署名が行われた。

（テ）　６日、ヒル外相は、オドンゴ・ウガンダ外相と会談を行ない、二国間アジェンダを確認するとともに、新しい協力ロードマップを策定した。

（ト）　６日、ヒル外相は、アブドラヒアン・イラン外相と立ち話を行い、二国間の戦略的関係を繰り返し表明した。

（ナ）　６日、ヒル外相は、アッターフ・アルジェリア外務・在外自国民大臣と会談を行ない、協力・協調関係の強化に向け、両国の関心事項を協議した。

（ニ）　６日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、Mbarouk Nassor Mbarouk タンザニア外務・東アフリカ協力副大臣と会談を行い、さまざまな共通関心分野における協力に合意した。

（ヌ）　６日、プフ・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、トリ・タルヤット・インドネシア外務省多国間協力局総局長と会談を行い、これまでに署名された二国間合意文書、及び通商・観光・エネルギー領域の共通アジェンダを確認した。

（２）　モトリー・バルバドス首相のベネズエラ訪問

（ア）　８日、ヒル外相は、モトリー・バルバドス首相を、シモン・ボリバル国際空港で出迎え、国立霊廟での献花

に同伴した。

（イ） ８日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、モトリー・バルバドス首相と、二国間関係の強化に関し、会談を実施した。

（ウ） ８日、マドゥーロ大統領は、モトリー・バルバドス首相と会談を行い、相互尊重、連帯、補完性の原則に基づく戦略的協力マップを策定した。

（エ） ８日、航空分野及び農業食料主権にかかる合意文書、並びに共同声明への署名が行われた。右署名式の後、マドゥーロ大統領は、モトリー・バルバドス首相へ第一級解放者勲章を授与するとともに、共同記者会見を行った。

（３） ラムディン・スリナム外務・国際商業・国際協力大臣のベネズエラ訪問

（ア） １０日、ヒル外相は、ラムディン・スリナム外務・国際商業・国際協力大臣と、第５回スリナム・ベネズエラ政策協議メカニズム会合の枠組において二国間アジェンダを進め、協力を強化することを目的に、会談を実施した。同会談には、ロジョ漁業・水産大臣、オブリタス大学教育大臣、セランテス・エコロジー鉱業開発大臣、ベラスケス運輸大臣、リ・カウシ・カリブ担当外務次官が同席した。同会談後、両外相は、議事録及び共同宣言に署名を行った。

（イ） １０日、ラムディン・スリナム外務・国際商業・国際協力大臣は、クラレムス・ラテンアメリカ経済機構（SELA）常任理事と、カリブ地域の課題、及び地域的課題に応える戦略を連結・統合する必要性に関し協議するため会談を実施した。

（４） ヒル外相のセルビア訪問

（ア） １４日、ヒル外相は、ブチッチ・セルビア大統領と会談を行い、観光、運輸、エネルギー、農業をはじめとする各分野における二国間協力アジェンダの見直しを行った。

（イ） １４日、ヒル外相は、ブルナビッチ・セルビア首相と、将来的な両国間の同盟構築に向けた共通事項、並びに平等性に基づく協力継続を確認する目的で、会談を実施した。

（ウ） １４日、ヒル外相は、ダチッチ・セルビア外相と会談を行い、二国間アジェンダの確認を行うとともに、署名済の合意の拡大・強化について協議した。同会談後、観光部門の拡大に向けた一般旅券へのビザ廃止、空路接続、あらゆる外交関連分野に関する協力合意への署名が行われた。

（エ） １４日、ヒル外相は、オルリッチ・セルビア国会議長と会談を行い、１４０年以上に亘る二国間関係を強調した。また、国土統合及び国家主権の尊重をはじめとした各機会に、ベネズエラはセルビアを支持する旨改めて表明するとともに、経済及び議員交流をはじめとする各分野において協力を強化していく準備がある旨述べた。

（オ） １４日、ヒル外相は、テレビ・ラジオ番組のインタビューを受け、二国間関係のみならず、あらゆる多極間領域においてセルビア国民及び政府への支援を表明するとともに、コソボはセルビアの一部であると述べた。

（カ） １５日、ヒル外相は、Nikodijević ベオグラード市議会議長と会談を行い、科学、文化、スポーツ並びに地方自治体の運営、交通分野に関する知見共有をはじめとする両国首都間での協力・協働関係の強化を確認した。

（５） 第３回 EU・ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合（於：ブリュッセル）

（ア） ７日、ヒル外相は、１７日及び１８日にブリュッセルで開催予定の第３回 EU・ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合に向けた CELAC 側準備会合に、オンライン形式で出席した。

（イ） ９日、ベルギーに所在する左派団体、中南米団結コーディネーターが、第３回 EU・CELAC 首脳会合へのマドゥーロ大統領の参加を阻止する動きに対して反対する声明を発出したことに対し、ヒル外相は、謝意を表明した。

（ウ） １１日、ベネズエラ政府は、第３回 EU・CELAC 首脳会合の準備における EU の透明性の欠如及び操作的手法を懸念するロドリゲス・キューバ外相声明への支持を、外務省コミュニケを通じて表明した。

（エ） １６日、デルシー・ロドリゲス副大統領及びヒル外相は、ブリュッセルに到着した。１６日、ヒル外相は、ディアスカネル・キューバ大統領と立ち話を行うとともに、ロドリゲス・キューバ外相と会談を行い、両国民の支援のためのメッセージを交換した。

（オ） １７日及び１８日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、第３回 EU・CELAC 首脳会合に出席した。１８日に首脳会合で演説を行った他、１７日には、人民サミットで演説を行った。

（カ） １７日、客年１１月のパリ平和フォーラムの枠組でマクロン仏大統領のイニシアティブで開催された与野党対話に関する会合に続く協議の場として、与野党対話再開に向けたベネズエラ情勢に関する会合が実施された。今次会合には、デルシー、ロドリゲス副大統領及びヘラルド・ブライデ野党統一プラットフォーム・コーディネーター（与野党交渉野党側コーディネーター）、並びにマクロン仏大統領、ボレル EU 外務・安全保障政策上級代表、フェルナンデス亜大統領、ペトロ・コロンビア大統領、ルーラ伯大統領が出席した。

（キ） １７日、ヒル外相は、相補性に基づいた通商関係の改善をはじめとする地域的団結を引き続き強化していくことを目的に、５月３０日のブラジリア・コンセンサスによって創設された南米諸国外相会合コンタクトグループに出席した。

（ク） １８日、ヒル外相は、人民サミットで演説を行った。

（ケ） １８日、マドゥーロ大統領は、テレビ番組のインタビューに応え、第３回 EU・CELAC 首脳会合において、与野党間には制裁の解除が必要であるとの一致があり、右が実行されねばならない旨述べた。

（６） テレチェア石油大臣兼ベネズエラ石油公社（PDVSA）総裁のロシア訪問

（ア） １７日、テレチェア石油大臣兼ベネズエラ石油公社（PDVSA）総裁、及びノバク露第一副首相をヘッドとする代表団は、ロシア・ベネズエラ間ハイレベル委員会（CIAN）の枠組において、モスクワで閣僚級会合を開催し、７つの合意文書に署名を行った。

（イ） １８日、テレチェア石油大臣兼ベネズエラ石油公社 PDVSA 総裁は、シュリギノフ露エネルギー大臣と、エネルギー協力のロードマップの強化継続に向けた会合を実施した。

（７） ヒル外相のトルコ訪問

２１日、ヒル外相は、フィダン・トルコ外相と、貿易額３０億米ドルを目標とした投資促進相互保護協定に署名した。

（８） ファトゥーハ・パレスチナ国民議会議長のベネズエラ訪問

（ア） ２４日、ホルヘ・ロドリゲス体制側国会議長は、ラウヒ・ファトゥーハ・パレスチナ国民議会議長と会談を行い、「シオニズムの犯罪的行動によって土地を侵略された」パレスチナ人民の問題に対するベネズエラの強い支援を表明した。同会談にはインファンテ第一副議長、ペレス第二副議長が同席した。

（イ） ２４日、カベージョ・ベネズエラ統一社会党（PSUV）第一副党首は、ファトゥーハ・パレスチナ国民議会議長と会談を行い、パレスチナ問題に対するベネズエラのコミットを確認した。

（ウ） ２５日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ファトゥーハ・パレスチナ国民議会議長と会談を行い、パレスチナの自由な主権国家としての自決権に関するマドゥーロ大統領の支持を確認した。

（エ） ２５日、ヒル外相は、ファトゥーハ・パレスチナ国民議会議長と会談を行い、自由及び自決権のために闘うパレスチナ人民及び政府へのベネズエラの支持を確認した。

（９） 第１回ホンジュラス・ベネズエラ政策協議メカニズム会合（於：カラカス）

（ア） ２６日、住宅省及び住宅ミッションの高官は、トーレス・ホンジュラス外務・国際協力省筆頭次官をヘッドとするホンジュラス代表団と会合を行い、住宅テーマに関する意見交換を行った。

（イ） ２７日、ペニャ・ラテンアメリカ担当外務次官は、トーレス・ホンジュラス外務・国際協力省筆頭次官と会談を行い、住宅、エネルギー、通商、金融、空路接続、教育、文化、スポーツ、保健、戦略的計画分野における相互支援、及びPSUVとホンジュラス自由党の政治的連携を確認し、共同宣言に署名した。

（ウ） ２７日、リ・カウシ・カリブ担当外務次官兼 ALBA 銀行総裁は、ホンジュラス代表団と、会談を実施した。また、経済・財務・貿易省及びベネズエラ経済社会開発銀行（BANDES）の高官は、同代表団と、両国の金融協力の評価のための会合を実施した。

（１０）ハメル・ガス輸出国フォーラム(GECF)事務局長及びレボジェド・ラテンアメリカ・エネルギー機構(OLADE)事務局長のベネズエラ訪問

（ア） ２６日、ヒル外相及びテレチェア石油大臣兼 PDVSA 総裁は、ベネズエラ訪問中のハメル・ガス輸出国フォーラム（GECF）事務局長と会合を行い、グローバル戦略の一環として異なるエネルギー源間の補完性を推進する旨約束した。また同日、両大臣は、レボジェド・ラテンアメリカ・エネルギー機構（OLADE）事務局長と会合し、中南米地域のエネルギー統合に引き続き取組んでいく旨協議した。２７日、テレチェア石油大臣兼PDVSA総裁は、ハメルGECF事務局長及びレボジェドOLADE事務局長と、炭化水素分野での共同協力に関する覚書に署名を行った。

（イ） ２７日、マドゥーロ大統領は、ハメルGECF事務局長と、エネルギー諸分野における戦略的同盟及び補完性の強化に関し、会談を実施した。

（ウ） ２７日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ハメルGECF事務局長及びレボジェドOLADE事務局長と、エネルギー分野における戦略の強化に向けた会合を実施した。

（エ） ２７日、レベロル公共事業・サービス担当副大統領兼電力大臣は、ハメル GECF 事務局長及びレボジェドOLADE事務局長と、中南米地域におけるエネルギー統合の推進及び協力発展の促進を目的とした会合を実施した。

（１１） その他

（ア） １日、ハイメ・ガスムリ駐ベネズエラ・チリ大使がベネズエラに到着した。

（イ）　３日、第４３回国連食糧農業機関（FAO）総会に出席したカストロ農業生産性・土地大臣は、レヴィン露農業副大臣と会談を行い、第２６回サンクトペテルブルク国際経済フォーラムでの討議及び前進を確認した。５日、右大臣は、屈 FAO 事務局長と、共同プロジェクトの強化に関し、会談を実施した。

（ウ）　３日、カパヤ・ロドリゲス新駐インド・ベネズエラ大使は、Ashuman Gaur インド外務省儀典長に、信任状の写しを提出した。

（エ）　４日、ベネズエラ政府は、「ベネズエラ事案」に関し、国際刑事裁判所（ICC）上訴裁判部に抗告を行った旨、外務省コミュニケを通じて発表した。

（オ）　４日、ベネズエラ政府は、カリブ共同体（CARICOM）創設から５０周年を記念し、外務省コミュニケを通じて祝意を表明した。

（カ）　４日、ベネズエラ政府は、米国独立記念日に際し、外務省コミュニケを通じて、米国民に祝意を表明するとともに、米国に政治的意志があれば、相互尊重、平和的共存、及びベネズエラが常に移行への用意がある外交への道を再開することができる旨説明した。

（キ）　４日、ペニャ・ラテンアメリカ担当外務次官は、ラボルデ駐ベネズエラ・アルゼンチン大使と会談を行い、共同作業アジェンダを評価した。

（ク）　５日、コンスタント在ジュネーブ国連ベネズエラ政府代表部常駐代表は、第５３回国連人権理事会で演説を行い、トゥルク国連人権高等弁務官によるベネズエラの人権状況に関する報告に疑義を表明した。

（ケ）　８日、マドゥーロ大統領は、未曽有の干ばつを経験しているウルグアイ国民に対し支援を行う旨、表明した。

（コ）　１０日、ヒル外相は、ヴィエイラ伯外相と電話会談を行い、二国間関心事項に関する見方を共有するとともに、両国民の福利に向け引き続き前進するための作業アジェンダを確認した。

（サ）　１１日、ヒル外相は、ガスムリ新駐ベネズエラ・チリ大使から、信任状の写しを受領した。

（シ）　１１日、マルティネス新駐コロンビア・ベネズエラ大使は、ペトロ・コロンビア大統領に、信任状を捧呈した。

（ス）　１４日、テレチェア石油大臣兼 PDVSA 総裁は、Karamanoglu 駐ベネズエラ・トルコ大使と、エネルギー分野における協力強化を目的とした、会談を実施した。

（セ）　１７日、中国国家航天局の国際月面研究ステーション（ILRS）とボリバル宇宙活動庁（ABAE）の協力にかかる共同声明に署名がなされた旨発表された。

（ソ）　１７日及び１８日、プフ・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、Al-Brak イラク米州担当外務次官と、二国間関係の強化を目的とした会談を行い、農業及びエネルギー分野の発展強化、及び観光・空路接続等、共通関心事項に関し協議した。１７日、Al-Brak イラク米州担当外務次官は、インファンテ体制側国会第一副議長、アルバレス経済・財務・貿易省次官（貿易投資促進担当）、サンタナ石油省次官（ガス担当）と会談を行った他、１８日には、サンタナ石油省次官をはじめとする石油省高官等と、OPEC 関連事項に関し協議を行った。

（タ）　１９日、ロシアとの通商協定の一環で１１０万ドースのインシュリンを積んだ航空機が、シモン・ボリバル国際空港に到着した。

（チ）　２１日、ICC 予審裁判部は、「ベネズエラ事案」に関する捜査再開決定に対するベネズエラ側の抗告が行われている間、カーン ICC 検察官の捜査権限を停止するよう要求していたベネズエラ側の主張を退ける旨発表した。

（ツ）　２５日、ヒル外相は、王毅新中国外相の就任に祝意を表明した。

（テ）　２６日、マドゥーロ大統領は、外務省コミュニケを通じて、モンカダ兵営及びカルロス・マヌエル・デ・セスペデス兵営襲撃７０周年に関し、キューバ国民及び政府に祝意を表明した。

（ト）　２６日、ヒル外相は、Rashid Mohsin Fetais 駐ベネズエラ・カタール大使と会談を行い、二国間戦略的連携の強化に合意した。

（ナ）　２７日、ヒル外相は、Maseko 駐ベネズエラ南アフリカ大使と会談を行い、政治、外交、通商、エネルギー、石油、ガス、青年、教育、治安、通信分野の署名済の合意を確認するとともに、BRICS に関し意見交換を行った。

（ニ）　２７日、ヒル外相は、Dillon 駐ベネズエラ・トリニダード・トバゴ大使と、両国の関心事項にかかる協力関係の強化に関し、会談を実施した。

（ヌ）　３１日、マドゥーロ大統領は、自身の番組に出演し、BRICS への加盟申請を公式化した旨表明した。

（ネ）　３１日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、８月２日及び３日に開催された第１回コンゴ（共）ベネズエラ合同委員会に出席するサス・ンゲソ・コンゴ（共）国際協力・官民連携推進大臣をヘッドとするコンゴ（共）代表団を、シモン・ボリバル国際空港で出迎えた。